

# 海峰



学校長 西 裕之

## マラソン大会から見た子供の成長

11月9日は、天高く澄み切った青空が広がる日になりました。マラソン大会には最高のコンディションです。グラウンドに集まった子供たちはとても引き締まった表情をしていました。

学習発表会が終わった翌週から約3週間、子供たちは朝活動や体育の時間に繰り返しマラソンの練習をしてきました。私は練習の様子を見ていて、例年以上に子供たちのやる気を感じていました。それは、練習であっても、友達と競い合っている姿や、決められた時間内で少しでも距離を伸ばそうと必死にラストスパートをかけている姿が見られたからです。子供たちの表情や息遣いから、真剣に取り組んでいる様子がひしひしと伝わってきました。

「位置について」とコールすると、子供たちは身をかがめて耳を澄まし、「静」の時間になります。そして「パン！」という紙雷管の音と同時に躍動する「動」の瞬間。私は緊張感が漂うこの瞬間の子供たちの表情が好きなのです。



運動が好きな子供もいれば、そうでない子供もいます。それは運動に限らず、どんなことにも当てはまります。大切なことは、1つのことに向かって自分なりの目標をもち、練習を積み上げる過程にあると考えます。積み上げる過程もなくマラソン大会を開催しても、それは教育活動とは言い難いのです。3週間の練習にどのような意味をもたせるか、どんな言葉をかけ子供たちの意欲を高めていくのが教育です。子供の資質や能力は一人一人違います。その子に応じた支援が必要です。子供たち一人一人が意欲的に取り組む環境をつくることは、私たち大人の責任であると感じています。子供たちの意欲は周囲によって引き出され、それが目の輝きや生き生きとした表情に現れるのではないのでしょうか。

去年、途中で歩いてしまった子供が「今年は最後まで走りました。頑張りました」と息を切らしながら話をしてくれました。この子供は、何とも言えないすがすがしい表情をしていました。

